

「専修大学」を社会へ発信

生き生き学生生活の一助に

ホームページのリニューアルにあたって

望月 宏
ホームページ
運営委員会議長

専修大学ホームページのリニューアルにあたって、望月宏ホームページ運営委員会議長(経済学部教授)に新しい専修大学ホームページの特徴と、大学ホームページの役割を寄稿していただいた。

2012年6月28日に専修アンケート調査(回答者数177人)の結果、07年10月36人、8・15%の回答率)月以来の大改定を行った。今の評価を反映させたものであ回りの改定にあたっては、10年(アンケート結果は、「情10」12月に実施された全学生「報科学研究」No.32「2011・教職員を対象とした、大規年」を参照のこと)。

以下に、今回の改定の特徴をホームページのデザイン、情報へのアクセス、提供情報の充実度の3点からまとめてみる。

デザイン面の特徴

最近のパソコン画面が横長になったこと、増大する情



▲ ホームページを見る望月教授とゼミ生

報量に対応するため、画面の幅を20%長くしたこと。この結果、ゆとりを持ったレイアウトの中で、情報を見やすく提供できるようになった。

アクセス面の特徴

▼マウスをボタンの上に持つだけで、内容の一覧が表示されるオンマウスの採用など、より少ないクリック回数で必要な情報にたどり着く工夫をおこなったこと。

▼専修大学のスクールカラーである緑を基調としながらも、伝統と活力を表現する陸上競技部のえんじ色も効果的に配色し、センスのあるデザインに仕上がったこと。これは女性デザイナーを採用し、意識的に女性の感性を取り入

拡大画面で見やすさ追求

女性の感性取り入れセンスアップ

れた効果が表れたもの。改定前は濃いめの緑色の占める割合が高く、全体として少し堅い感じがしたが、これが専修大学に対するイメージの形成に影響を与えていたこと否めない。

▼学生の生き生きとしたキャンパスライフを楽しんでいる姿を、このセンディナビに質問される内容に対する答えを集積したデータベースを新たに構築し、これに対してキーワード検索できるものがある。これは、ホテルやデパートで言えばコンシェルジュに相当するものを想定しており、質問に答えるだけでなく、こちらから質問、答えの数も、想定するキーワードの数も足りていないが、今後利用者の反応を

報がどこにあるかを図るとともに、自然言語を



▲ 大きくなって見やすくなったトップページ

の案内人をマスコットである「センディ」が務める。情報が膨大になる中で、提供情報の充実度

二つの基本方針

オンマウス採用で操作性向上

情報取得にカレンダー機能を追加

の情報は共有と連携を進め、大学の競争力を左右する重要な要因となり、戦略的なインフラとしての役割がますます大きくなってきているのである。



▲ 便利なカレンダー機能



本方針の考え方もこれと同様である。大学のホームページの役割は、大学の持つ資源と研究、教育の成果をより効果的に社会にアピールすることに留まらず、学生教職員の情報共有を進め、縦割りになりがちな学部、事務組織間の横の連携を促進し、大学の活性化を図ることにあると私は考えており、今回の改定の際にもこの2点に留意した。はたして、どこまでこれらの目標が達成したかは、今後のユーザーの判断に委ねたい。

大学HPの重要性と役割

今後は、現在以上に大学のホームページの社会的な役割は大きくなることに、大学の戦略的なインフラとしてホームページを位置づけることが必要になると思われる。

文部科学省の要請を受け、日本の大学は、ホームページ上で大学の教育、研究など大学の資源、成果、自己点検報告、財務情報の開示を行うという社会的責務を負う。

一方、大学のホームページは今や大学の顔となっており、在籍中の学生にとって自分の所属する大学に対するプライド形成に大きく影響するものであり、入学志願者にとっても志望大学決定の際の大事な判断材料となっている。

また、一般社会に対しては、大学の社会貢献の一つとして、いかに大学がその研究成果を社会に対して情報発信しているかを問われるが、その際の重要な資料でもある。学管理上、大学全体、言い換えれば大学冬の時代に、ホームページが大学間の競争力を左右する重要な要因となり、戦略的なインフラとしての役割がますます大きくなってきているのである。